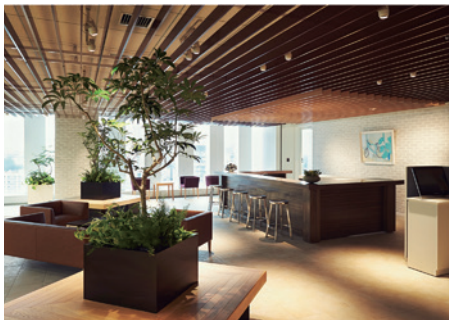




お客様情報



プラス株式会社ジョインテックスカンパニー

● 所在地

〒100-0014

東京都千代田区永田町2丁目13番10号

ブルデンシャルタワー 12F・13F

<https://www.jointex.co.jp/>

1948年に創業、オフィス家具、文具、事務用品などの製造・販売を手掛けるプラス株式会社。プラスの社内カンパニーで、文具・オフィス家具および各種サービスの卸販売事業を展開するジョインテックスカンパニーは、2001年に事業を開始。自社製品に限らずさまざまな商品を扱うことで幅広いニーズに応えると同時に、「ペーパーレス」「ワークスタイルの変革」「ワークプレイスの変化・進化」といった分野でのサービス提供を視野に入れ、さらなるビジネス拡大を目指しています。

プラス株式会社ジョインテックスカンパニー

ビジネスの中核を担うWebシステムを IBM SoftLayer環境に移行 パフォーマンスを大幅に向上すると同時に 10年間で4.1億円のコスト削減を試算

オフィス・サプライ(文具、家電、日用品、飲料、食品)やオフィス家具および各種サービスの卸販売事業を展開するプラス株式会社ジョインテックスカンパニー(以下、ジョインテックス)では、ワークスタイル変革の取り組みの一環としてシステムのクラウド化を推進。売上の約40%を占め、ジョインテックスのビジネスの中核を担うWebシステムのクラウド環境にIBM SoftLayer(以下、SoftLayer)を採用しました。SoftLayer環境に移行したことでパフォーマンスを大幅に向上するとともに、10年間で4.1億円のコスト削減を試算しています。

サービス・ビジネスの展開を見据えてシステムのクラウド化を推進

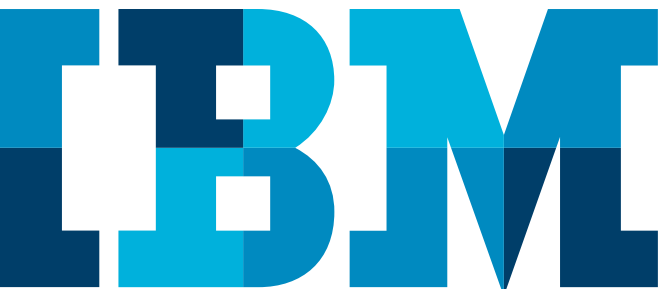
プラス株式会社(以下、プラス)は文具・事務用品卸業として1948年に創業。その後、自社工場を持つ本格的なメーカーへ転進する一方、業界の商習慣や取扱商品の範囲にこだわらない独自の流通サービスを発明するなど、市場創出に取り組んでいます。

ジョインテックスは、文具事務用品の開発・製造・販売を行うステーションリーカンパニー、オフィス家具の開発・製造・販売・内装施工を手掛けるファニチャーカンパニーとともにプラスを構成する社内カンパニーの1つで、オフィス・サプライ、オフィス家具および各種サービスなどの卸売業を展開しています。ジョインテックスのビジネス・モデルについて、同社 システム企画部 部長 松村 利朗氏は次のように説明します。

「ジョインテックスで扱う商品は、プラス製品だけではありません。プラス製品だけではお客様の多様なニーズに応えきれませんので、オフィスに必要なものはすべて取り扱うという方針の下、全国約7,000社の販売店への商品提供を行っています。従って国内外約1,000社に及ぶサプライヤーの製品を扱っていますので、プラス製品の取り扱いが全体の10%程度にとどまっています。ですので、非常に多品種多品目高トラフィックなビジネス形態となっています」

ジョインテックスでは、主な取引先となる販売店以外にも、官公庁、小中学校、介護施設にも営業活動を展開しています。こうしたビジネス展開に当たって、ジョインテックスでは「New Middleman」というコンセプトの新しい中間流通業のスタイルを確立するため、「1. ノンストック・ノンデリバリーを実現する」「2. 技能・資格の取得を支援する」「3. サービス・ビジネスを提供する」「4. 販売店の営業改革をサポートする」という4つの基本戦略を推進しています。

「1番目のノンストック・ノンデリバリーとは、販売店に代わって在庫管理と配送を行うサービスです。ジョインテックスが扱う商品だけではなく、販売店独自の商品やユーザー独自の名入れ商品などもストックして、まとめて配送します。2番目は販売店のスタッフの方々が技能や資格を取得することを支援するためにセミナーを開催するという取り組みです。オフィスに関する提案を行うためには、施工、工程管理などさまざまな専門知識や資格が求められますので、販売店のレベルアップをサポートすることが重要になります。3番目は、サービス・ビジネスを拡大していくという方針です。翻訳サービス、クリーニング、Web会議、印刷サービスなど、多様なサービスをパッケージ化して販売店が簡単に取次をできるようにします。最後は販売店の営業改革をサポートするためのプロジェクトを実施します。販売店の問題点を洗い出し、ブレーン・ストーミングを行いながら対面営業



事例概要

【課題】

- サービス・ビジネスを展開していくために、自らのワークスタイルの変革が必要だった。
- 機器の入れ換えなどのたびに大きなコストが掛かっていた。
- 主力Webシステムがネットワークの問題からアクセス集中時にレスポンス低下を招いていた。

【ソリューション】

- 社内システムを順次クラウド化する計画を推進。
- 主力WebシステムをIBM SoftLayer環境に移行することでパフォーマンスを改善。
- 以前から主力Webシステムに採用されていたIBM製品・サービス (IBM WebSphere Application Server、IBM WebSphere MQ、IBM DB2 Workgroup Server Edition、IBM Tivoli System Automation、IBM Security Network Intrusion Prevention System、IBM Managed Network Security Services) をクラウド環境でも活用。

【メリット】

- ネットワークが強化され、ピーク時の3倍のアクセスでも問題なく稼働する仕様になった。
- スペックが向上したことで夜間のバッチ処理に要する時間を5分の1に短縮。
- 10年間で4.1億円のコスト削減を試算。
- IBM SoftLayer環境に移行したことでセキュリティが大幅に強化。

時間の30%確保を実現し、新商材・サービスの学習・提案、新規顧客の開拓などに充当することを支援します」(松村氏)。

こうした戦略の背景には、オフィス人口の減少、ペーパーレス化に伴う事務用品ニーズの低下傾向があります。モノを販売するだけではなく、ワークスタイル変革支援業にも力を入れていくことを目指すプラスでは、まずは自らがワークスタイル変革を実践しています。「ワークスタイル変革を実践するためジョイントテックスではグループウェアやタブレット、Web会議システムの導入、紙資料の徹底撤廃、基幹システムのモバイル化、クラウド化の推進などに取り組んでいます。こうした自らの変革の経験を生かして、ワークスタイル変革支援のサービス・ビジネスを拡大していきたいと考えています」(松村氏)。

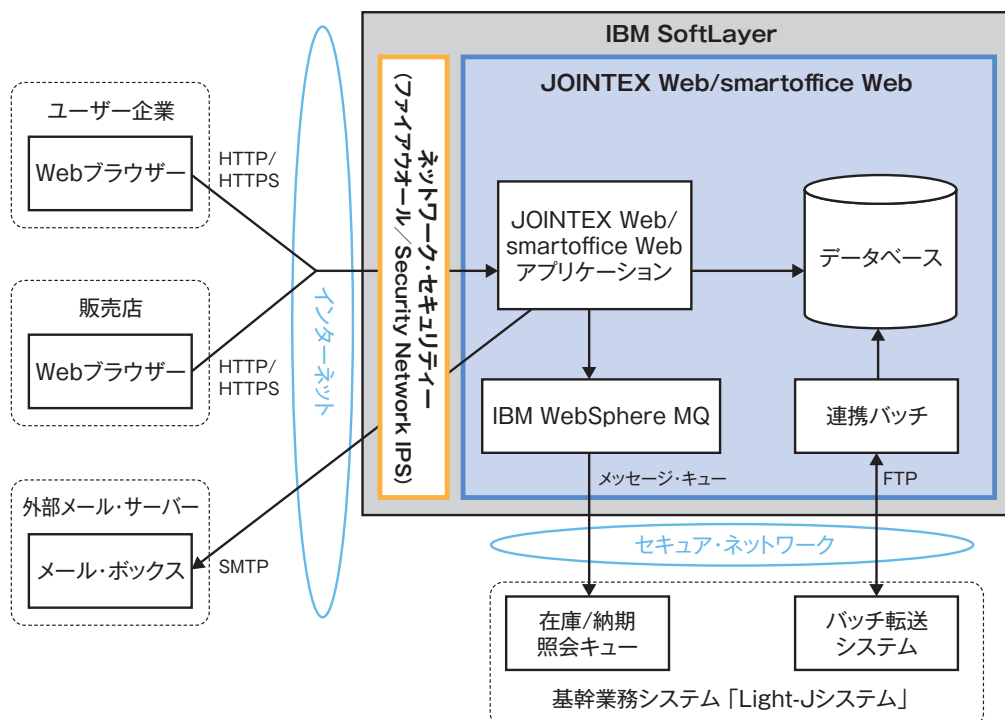
クラウド化については2014年から推進され、これまで新規事業のECサイト、販売店向けクラウド基幹システム、コールセンター用CRMシステムがクラウド化されました。

ビジネスの中核を担うWebシステムのクラウド環境にSoftLayerを採用

クラウド化を推進するメリットについて松村氏は以下のように語ります。

「クラウドは発電設備に例えられるとよく言われます。産業革命当時の英国では各工場が発電設備を保有していました。しかし、大型発電所と送電線網が発達すると自前発電は割に合わないということからほぼなくなりました。コンピューターも同様で、発電所に当たるクラウド業者が増え、送電線網に当たるインターネットが発達したことにより自前でデータセンターを保有することは割に合わなくなったと思います。またセキュリティ面では、銀行に例えられます。昔は銀行がなかったので自分で金庫を管理していましたが、今では高度なセキュリティに守られたメガバンクがあるので、そこに預ける方が安全だということは常識といってもいいでしょう。クラウド業者が提供する環境も高度なセキュリティに守られているので、自前のデータセンターよりも信頼できるようになっています。この2点がクラウド化のメリットだと考えています。オンプレミス環境だと『ハードウェアのサポートが切れた』『ミドルウェアはもう保守してもらえない』『この機器は生産中止になるので買い換

■ IBM SoftLayer 環境でのシステム概要



“10年間で約4.1億円のコスト削減を見込んでいます。これまでは数年ごとに機器の入れ換えを行っていましたが、こうしたまとまった出費が不要になるので、大きなコスト・メリットを生み出すことができます。”



プラス株式会社
ジョイントテックスカンパニー
システム企画部
部長

松村 利朗 氏

■販売店用カタログ「JOINTEX」と企業・官公庁向けカタログ「smartoffice」



JOINTEX Webサイト：
www.jointex.co.jp



smartoffice Webサイト：
www.smartoffice.jp

えなければ』『バージョンアップにハードウェアが対応していない』といったことがあるたびに大きなコストが掛かってしまうので、クラウド化のメリットは大きいと思います」

こうした理由からジョイントテックスではシステムのクラウド化を推進してきましたが、2014年に入り主力 Web システムについてもクラウド化の検討が始まりました。

「主力 Web システムは、販売店用受発注システム『JOINTEX Web』と、企業・官公庁向けオフィス用品 EC サイト『smartoffice Web』の2つのシステムが対象になります。この2つのシステムは売上の約40%を占める事業分野を支え、ジョイントテックスのビジネスの中核を担う存在ともいえる非常に重要なシステムです。従って、可用性やパフォーマンスなどについて高度な信頼性が求められます。そうした観点からクラウド・サービスを検討した結果、日本アイ・ビー・エム株式会社（以下、日本 IBM）が提供する SoftLayer を採用することが決定しました」（松村氏）。

日本 IBM は以前からプラス・グループと取引があり、ジョイントテックスの「JOINTEX Web」と「smartoffice Web」の開発を請け負い、さらには長年にわたり安定したインフラ運用実績を積み重ねてきたことから厚い信頼関係を築いてきました。また2つのシステムは IBM DB2 Workgroup Server Edition、IBM WebSphere Application Serverをはじめとした IBM 製品が採用されているため、その親和性を考慮したことも、SoftLayer を選択した理由になっています。

「IBM 製品との親和性を考慮しましたが、移行作業も日本 IBM にお願いすればスムーズに完了できるということも SoftLayer を選択した理由に挙げられます。また今回 SoftLayer を採用したことで、ジョイントテックスのクラウド環境は複数社のクラウド・サービスによって構成されることになります。これはリスク分散という観点から非常に重要だと考えています」（松村氏）。

SoftLayer 環境への移行作業は2015年4月に開始され、同年8月には新環境の稼働が開始しました。新環境でのセキュリティ対策から以前から採用している IBM Security Network Intrusion Prevention System（以下、Security Network IPS）をクラウド環境でも設置。Security Network IPS はネットワークの監視機能を提供するアプライアンス製品で、先進的な防御機能により巧妙化する脅威からシステムや情報を守ります。Security Network IPS を導入することで、EC システムが受けやすい外部からの不正アタックをブロックし、システム・ダウンを回避することが可能になります。

さらに IBM が提供するセキュリティ・サービスである IBM Managed Network Security Services（以下、MNSS）を組み合わせることで、さらなるセキュリティ強化を図っています。MNSS は独自の監視センター SOC（Security Operation Center）からお客様のシステムを監視するサービスで、IBM が運営するセキュリティ研究開発機関である X-Force による世界規模での調査・研究結果を反映することで、最先端の知見に基づくセキュリティ対策を施しています。

「移行作業は日本 IBM によるプロジェクト管理の下で行われました。新環境の OS に対応するためのアプリケーションの改修作業なども伴いましたが、非常にスムーズに進行し、予定通り新環境の稼働を開始することができました。これまで数々のプロジェクトを日本 IBM と実施してきましたが、今回が最も素晴らしかったと思います」（松村氏）。

パフォーマンスを向上すると同時に大幅なコスト削減を実現

SoftLayer 環境に移行後は順調に稼働が続いていると松村氏は言います。

「想定範囲内の細かなトラブルはあったものの、それらは大きな支障を招くことなく、快適なパフォーマンスを発揮しています。特にネットワーク強化の効果は大きく、従来は年度末など注文が集中するピーク時の稼働に不安を抱えていましたが、今ではまったく心配ありません。ピーク時のネットワーク帯域について、SoftLayer が提供する帯域を利用状況に応じて最大限活用できるようになったため、計算上ではこれまでのピーク時の3倍のアクセスが集中した場合でも問題なく稼働する仕様に改善されていますし、通常

のアクセス状況でも明らかに速くなったと実感できています」(松村氏)。

環境移行によりマシンのスペックが変わり、以前のシステムとの比較でパワーが2倍に増強されました。またCPUの使用率も改善されたことから夜間バッチ処理に要する時間が5分の1ほどに短縮されました。

またコスト面でも大きなメリットを試算しています。

「10年間で約4.1億円のコスト削減を見込んでいます。これまでは数年ごとに機器の入れ換えを行っていましたが、こうしたまとまった出費が不要になるので、大きなコスト・メリットを生み出すことができます」(松村氏)。

セキュリティー面についてもSoftLayerに大きな信頼を寄せていると松村氏は言います。「SoftLayerは世界的に豊富な実績を積み重ねていますが、その中で金融機関でも数多く活用されています。これはSoftLayerのセキュリティー・レベルの高さを物語っており、他社のクラウド・サービスに比べて信頼性は高いと思っています」

クラウド化をさらに進め、サーバー・ルームの廃止を計画

新環境でのシステム運用を踏まえて松村氏は今後のビジネス展望について語ります。

「SoftLayerに移行したことにより快適なシステム環境をユーザーの方々にご利用していただけるようになりました。こうした改善によりサービスが向上し、ビジネス拡大につながっていくことを期待しています」

ジョイントテックスでは、今後もクラウド化を進めていく予定です。

「2016年1月に基幹システムをクラウド環境に移行する計画を進めています。また同じタイミングで商品検索エンジンのクラウド・サービスの利用を開始する予定です。その後はメール・サーバーやファイル・サーバーなどもすべてクラウド環境に移行し、2017年中には自前のサーバー・ルームを廃止することを計画しています。このように完全にクラウド化することで、社員が場所を問わずに業務を遂行できるようになります。こうしてワークスタイルの変革をさらに推し進め、お客様に向けたサービスにもその経験を反映させ、ペーパーレス化のソリューションなどと組み合わせながら効果的なサービス提供を実現していきたいと考えています」

今後ジョイントテックスは、最先端の知見を活用しながらオフィス環境やワークスタイルの最適化をサポートするビジネスを展開していくでしょう。

IBM SoftLayer についての詳細情報は下記の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/cloud-computing/jp/ja/softlayer.html



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2015

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

Printed in Japan

October 2015

All Rights Reserved

このカタログの情報は2015年10月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。
記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果を得られることを意味するものではありません。
効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。
製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。
IBM、IBMロゴ、ibm.comおよびDB2、Tivoli、WebSphere、X-Forceは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。
他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。
現時点でのIBM商標リストについては www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。